

支倉常長フェロー報告書

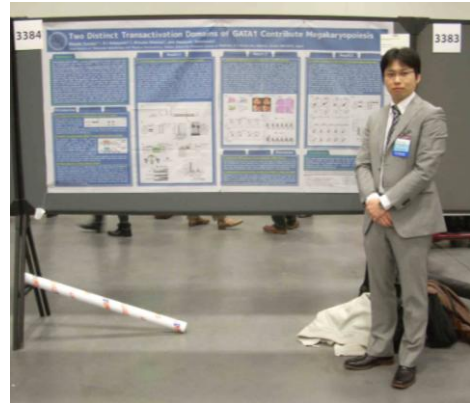
提出日 平成 23 年 12 月 22 日



申請者	氏名	金子 寛
	所属・職	医化学分野・大学院生
出張期間	平成 23 年 12 月 9 日 ~12 月 14 日	
渡航先	米国カリフォルニア州サンディエゴ サンディエゴコンベンションセンター	
渡航目的	学会参加・共同研究のための留学・()	
発表演題名あるいは 共同研究課題名	Two Distinct Transactivation Domains of GATA1 Contribute Megakaryopoiesis	

得られた成果など

赤血球・巨核球分化に必須の転写因子 GATA1 は、ダウン症関連急性巨核芽球性白血病(DS-AMKL)としても近年注目されています。DS-AMKL 患者からは、ほぼ全症例で GATA1 遺伝子の遺伝子変異が報告されています。変異の結果、DS-AMKL 患者では転写活性化部位を欠失した G1 \otimes NT が発現しており、DS-AMKL と GATA1 機能異常の関連性が示唆されています。申請者は GATA1 に新規転写活性化部位を見つけ出し、それが赤血球・巨核球分化に重要であることを突き止めました。また、本来 GATA1 が二つの転写活性化部位を用いて転写制御を行う一方で、G1 \otimes NT は新規転写活性化部位依存的な不均衡な転写制御を行うことを明らかにしました。これら結果を、支倉常長フェローご支援の下、第 53 回米国血液学会年会(12 月 9-13 日)に参加させて頂き、ポスター発表を行いました。



会場では、多くの研究者の方にポスターを見て頂き、議論を交わすことができました。また、今回の発表データに加えて、今後の研究展望に関しても、多くの質問やコメントを頂き、研究計画の将来性や妥当性を再確認する良い機会となりました。

さらに、参加した 3 日間の会期を通じて、数多くの口頭発表やポスター発表を拝聴する機会を頂き、関連する研究の最先端の知見を得るなど大変有意義な学会参加でありました。